

長期ストの体制 を確立せよ!!



~~昨日の文部省教授会との面談で、文教授会は 6・19 文部省交渉の無効宣言を確認した。しかし、我々の対文部斗争の位置づけか評議会正義をからくるための戦術的なものであったことを重強調するならば、①『無効宣言』が既成の大中自治説を一歩も出ない手続き論的反対論であり、渡辺研究室原宿町に対する評価を欠落させた他部署への競争の論理をもたらしたこと、②生半的意見表示の無効宣言をからとしていくための、文教授会の具体的対応策をもつていかなかった、③それ故に、評議会正義をからとるという展望が用かれなかった、という我々の運動の限界を十分に自己批判ねばならない~~

全中の意思表示が行われてしまった現在、我々の目的は、討評会を開くこと、6・15文部省交渉無効、6・10監査会決定を経て、今回の宣言をさせるまで、移動籠城を一切阻止するという斗争を最限度続けていく必要がある。その方針のもとに、団交実現までの徹底的長期ストライキ体制の確立、全学スト（最年限大塚三学部のスト）体制の確立が急務である。その圧倒的な力関係をつくり出すことが、団交実現のキーポイントである。そのためには、本日の学生大会で、文学部が先陣にてて長期ストライキの方針を再確認すると共に、理学部をはじめ他学部との合同クラス討論を行っていく必要がある。

現在の我々の運動の最大の欠陥は、ストライキという斗争形態の思想的把握=学生の大学の主人公としての権利宣言であり、大学に新しい秩序を創造していくことであるといふ認識の不十分性にある。つまり、20・21日のストが、学生を直接斗争の主体者としてではなく、自らのピicketで若虫に強制的に坐らされ、スケジュールをこなす客体としてしか位置づけられていないということである。

斗争委員会の、クラス討論状況の適確な把握と指導、集会における自由発言の重視を通して、強固な意志統一をはかっていくことこそが、突破口を切りひらくであろう。

教育宣傳部は無効を聲明

十九日、十二時からまたもや和室裡に對文部省交歩於文學部於不參加のままで行なゆれた。二此に対し、昨日午後二時から開かれた文教授会は、十日評試会決定と十九消しを要求する次試文を探取した。

この文部省文
歩では、六・一
〇決定にしたが
つて冒頭で学長
が土壌希望の旨
を述べたあと、
上武学部長が、
将来的に大坂を
保有でざるのか
と質問した。二
れに対して文部
省側は、ツーキ
マンバスは認め
はハ、緊急の連
絡手段を廃せる
程度だと述べて

三五で決定された旨は、抗議・取り消しには、抗議・取り消しの会メンバー・文部大臣・業新内閣に対する文学部のことで止まり、全局的であることを意味せず、其の試合には出席するが務めは留武将百兵見附すにほつた。おお譯美会にては、譯美会席上教被逐にもう帰つて日本へと久次定された。

衣裳を取付た。具体的な要求は、教授の意見と大學生長の見解を伝える。東京支那事務局決定区変更の申請を拒否し、評議會向懇に付けて、日本政府に抗議する旨を表明。次に、証誠員に、名前を記入するよう要請する。

文京区大塚3-29-1
東京教育大学新宿会
TEL 946-2151

学生大会